

# 那珂市名誉市民紹介

いわかみ ころう

## (故) 岩上 二郎 氏

大正2年11月29日〜平成元年8月16日

(1913年)

(1989年)



### ◆功績の概要◆

大正2(1913)年茨城県那珂郡瓜連村(現那珂市瓜連)に生まれまし  
た。昭和15(1940)年に京都帝  
国大学法学部現国立大学法人京都大  
学)を卒業後、ブリヂストンに入社し  
ましたが、その8ヶ月後に召集されま  
した。その後、主計将校として終戦を  
迎え、昭和21(1946)年に復員  
しました。

帰郷後すぐに青年文化運動に参加  
して、地方民主主義文化の向上発展に  
努め、翌昭和22(1947)年には、  
瓜連町長となりました。昭和26(1  
951)年にいったん町長の座を退き、  
地方自治や社会福祉を研究するため  
ペパーダイン大学(米国)に留学しま  
した。氏は研究を修め、昭和30(1  
955)年に帰国し、町長に復帰しま  
した。

昭和34(1959)年、茨城県知  
事選挙に出馬し当選しました。知事在

任中は、「農工商全」を掲げて地域開  
発を目指し、鹿島臨海工業地帯・筑波  
研究学園都市の開発に力を注ぎ、今日  
に至る茨城県の産業と学術の基盤を  
作りました。また、長年の悲願であつ  
た米軍水戸射爆場(跡地は常陸那珂港  
や常陸海浜公園の一带)の返還に特に  
尽力し、昭和48(1973)年に返  
還に至りました。

昭和50(1975)年に知事を退  
任した後、請われて再び茨城県歴史館  
長を務め(知事任職中、館長を兼務)、  
歴史資料保存法(後の公文書館法)制  
定に向けた運動に心血を注ぎました。  
また、鹿島地域の教育のレベルアッ  
プを目指して清真学園創立に奔走し、  
初代理事長に就任、県下屈指の進学校  
の礎を築きました。

昭和53(1978)年に妻で参議  
院議員の岩上妙子氏が病により議員  
を辞職したため、それに伴う参議院補  
欠選挙に出馬して当選を果たしまし  
た。

氏は参議院議員を3期務め、この間、  
議員立法で「公文書館法」を制定しま  
した。公文書のうち、歴史資料として  
価値のある文書の保存に大きな役割  
を果たし、歴史館長時代の信念がここ  
に実を結ぶことになりました。

また、議員任職中は科学技術政務次  
官を歴任するほか、平成元(1989)  
年6月に公文書館法施行1周年記念  
として、国際文書館評議会(本部・パリ)  
から名誉メダルを授与されています。

しかしその2か月後、肝不全のため、  
慶應義塾大学病院で議員任職中のま  
ま惜しまれつつ逝去しました。

### ◆名誉市民選定の理由◆

瓜連町長として地域の発展に傾注  
するほか、茨城県知事としても鹿島臨  
海工業地帯・筑波研究学園都市の開発  
米軍水戸射爆場の返還等の事業を推  
進し、現在の茨城県発展の礎を築いた  
功績は大きなものがあります。

また、茨城県知事退任後に清真学園  
を創立し、茨城県の教育レベルの向上  
に貢献するなど、政治家としてだけ  
なく、教育者としての功績も特筆すべ  
きものがありました。

さらに、早くから歴史的な文書保存の  
必要性を認識し、参議院議員任職中に  
「公文書館法」を成立させました。

「公文書館法」は歴史資料の範囲に  
公文書等を含め、さらに国及び地方公  
共団体に、これらの保存及び利用に関

し、適切な措置を講ずる責務を明文化  
しました。これにより日本の公文書の  
保存及び活用に関する概念が確立さ  
れました。

これらの功績は誠に顕著であり、郷  
土の誇りとして尊敬に値するものと  
認められるため、名誉市民として選定  
しました。

### 【略年表】

1913年(大正2年)	瓜連村で生まれる
1940年(昭和15年)	京都帝国大学卒業 ブリヂストン入社
1946年(昭和21年)	召集され陸軍に入隊
1947年(昭和22年)	復員 青年文化運動に参加
1951年(昭和26年)	瓜連町長に当選する
1955年(昭和30年)	町長を辞し米国ペパーダイン大学 へ留学
1959年(昭和34年)	帰国 町長に復職
1974年(昭和49年)	茨城県知事に当選
1975年(昭和50年)	茨城県歴史館オープン
1978年(昭和53年)	茨城県知事辞職
1982年(昭和57年)	茨城県立歴史館長を再任 参議院議員に当選
1987年(昭和62年)	科学技術政務次官に就任 公文書館法制定
1989年(平成元年)	勲一等瑞宝章を授与される 国際公文書館評議会名誉メダルを 授与される
	76歳で逝去